

ー労働と教育の場「雑草」・フーパーハウス・生活支援センター・法人・後援会だよりー

あらぐさニュース

2015 7

Vol.58

発行/社会福祉法人あらぐさ福祉会 〒362-0051 上尾市地頭方438-6 TEL048-726-5720 048-726-5862(支援センター直通)

☆☆☆☆☆☆

第14回 あらぐさ祭りin 七夕

☆☆☆☆☆☆



7月4日(土)に第15回あらぐさ祭りを開催しました。今回も昨年に引き続き「七夕まつり」バージョンです。当日はあいにくの雨まじりのお天気でしたが、早い時間からたくさんの方にお越しいただきました。あらぐさ祭りも地域の方の中にだいぶ定着してきたと実感することができました。年に1回こうして地域の方と触れ合うことができる貴重なイベントです。今年度はより七夕の雰囲気盛り上げようと、仲間、職員で七夕飾りをたくさん作りました。とても華やかな会場になりました。さらに、恒例の大抽選会やバザー、後援会の焼きそば・カレーの販売に加え、流しソーメンやクイズ大会など様々な企画も盛りだくさんで楽しんでいただけたと思います。最後の抽選会には雨の中傘をさして「あたり」を心待ちにしていた方も多く、名前が呼ばれるたびに歓声が上がって大いに盛り上がりました。外れてしまった方はごめんなさい!?また来年リベンジしてください。4、5面に写真入りで当日の盛り上がった模様を掲載しております。(岩淵)

私達を守るために憲法を守ろう！

7月4日（土）、あらぐさまつりを小雨決行しました。それでも170人を超えるお客様が来てくださいました。問い合わせも沢山あり晴れていたらなあと残念です。内容は昨年と同様に進めました。ご迷惑をおかけしたところもあるかと思いますが、参加してくださった皆様、ありがとうございます。

さて、国会では「安全保障法案」という名の「戦争法案」の審議がされています。憲法は私達を守るため、国がやってはいけないことやるべきことを決めた最高法規です。その憲法で戦争をしないとあるのですから、戦争は出来ないのです。にもかかわらず、憲法を変えるのは大変だからと、閣議決定で勝手に集団的自衛権を認め、海外に行って戦争をするために11の法案をまとめて成立させようとしています。

人を殺し、殺されるのが戦争です。それだけでなく、戦争に役立たないと障害者を排除し、障害者を生み出すものでもあります。身体の障害だけでなく、イラク戦争派遣後、精神を病んだ自衛隊員もいたと聞きます。戦争への道を進めることは、障害があってもそれを受け止め、地域の中で豊かに生きようとしている人たちの思いを踏みにじるなものでもありません。決してこの一步を許してはなりません。

安倍首相は95日も会期延長をし、この法案を通そうとしています。「地球のどこでも」、「切れ目なく」、「日本が攻撃されていなくても」戦争に参加できるという内容です。審議が進めば進むほど内容が明らかになり反対の声が大きくなるのは当然でしょう。マスコミは事実を報道してきたといえるでしょうか？国会周辺で法案反対の3万人集会があった翌日見事に報道しませんでした。先日若手議員の文化芸術懇話会で「マスコミを懲らしめるには広告料収入をなくせばいい」「沖縄の2紙は潰さないといけない」など空いた口がふさがらない発言が飛び出しました。さすがに翌日の新聞テレビは批判的に取り上げていました。これを機会に、マスコミも声をあげるようになればいいのですが。

反対の世論は高まりつつあっても、安倍首相は強行採決を目論んでいます。95日の会期延長は初めてのことですが、これはなんとしても通そうという強い意志の現れでもあります。この法案が通ったら、とんでもないことになると思う人が増えてきています。ネットを通じても広がり、若者や今まで政治とは無縁だった人たちも参加し、今までにない運動になっています。

もう一つ、社会福祉法改正案が審議入りしています。前回もお伝えした社会福祉法人の余剰金を困窮者の生活支援等に使えるという内容です。余剰金といっても、老朽化した施設の建て替えや新事業の立ち上げなど、いわゆる大企業の内部留保とはケタも意味も違います。しかし、社会福祉分野の削減はこれから加速するでしょう。だからこそ、それぞれの分野での社会貢献をしっかり果たし、抗議の声を上げ続けなくてはなりません。

その努力を多くの人が少しずつ担うような、広い繋がりになることを願い、一翼を担いたいと思います。

(荒川)



「障害者生活支援センターあらぐさ」のページ

～今、改めて「親亡きあとを考える」 その4～

これまで3回に亘ってこの問題を取り上げてきましたが、いくつか質問が寄せられていますので、回答しながら一緒に考えていきたいと思います。

Q1：国はなぜ入所施設を作らない（作らせない）のか？

答：1981年国連の国際障害者の10年が始まった頃は、確かにこれからは、入所施設ではなく、住み慣れた地域で暮らそうという考え方が新しく・かつそういうことで展望を開こうという考え方で、どんどん新たな取り組みも始まり、作業所もたくさんできて、グループホームも増え始め、苦しいけれど、未来を信じて前へ進もうという感じでしたが、介護保険導入（1995年）頃より、社会福祉切り捨ての路線が強まり、福祉そのものの形態を作り替えて、公的責任の放棄・自己責任(家族)・有料化・市場化の流れが始まりました。その為入所はもちろん、ホームも、通所も簡単にはできなくなりました。この流れは小泉政権～現安倍政権で一段と激しくなっています。

その矛盾は今の親なきあとに顕著にでてきているわけです。つまり施設は昔のままで数も増やさず、地域々々と安上がりねらいで施設を作らせないから、必然的に必要な世帯は増える一方になります。この点を国は見て見ぬ振りをしています。

Q2：入所施設は古い（時代遅れ）ではないのか？

答：確かに歴史のある施設が多く、改善は必要ですが、現在のホームの貧弱な予算措置では、障害の重い仲間や様々な困難を抱えた仲間や、あるいは医療ケアの必要な仲間をしっかりと受け止められる体制が保障できず、充実した支援がやりきれいでありません。

これまでの入所施設の反省を生かし、新しい入所施設もホームや家族で暮らすことと同様にとっても必要なことだと考えています。本当に選択する良い資源が全くないという現状をきちんとおさえることが大事です。

Q3:では今後2～3年ぐらいでホームなり、入所施設に入るにはどうしたらよいのか？

答：当面は私たちといっしょに運動をして、ホームや入所施設を認めるように国に働きかけるしかありません。具体的には、行政に申請をしておく、運営する団体に働き掛ける、短期入所を始める、施設もホームも見学をする、家族でよく話し合いをしておく、行政やセンターと早めに相談をする等の行動をお越し、準備を始めていきましょう。

次回は入所施設の職員にお話しを聞いてみます。

(中富 英二)



2015 あらぐさ祭り



パンケーキ作り



今年は、「パンケーキブーム」だけあって、この企画はお子様に大人気でした!!

みなさん上手にクルッと回して、アイスやチョコレートソースなどのトッピングを自分たち飾り付けてお召し上がりいただきました。

リサイクル班*くじ



後援会
バザーと屋台



屋台では、毎年恒例の焼きそば、カレーをはじめ、チヂミや焼き鳥といった、まさに「ビアガーデンか!!」と思わせる品が盛り沢山でした。
バザーは、高齢者や主婦層の方に人気でした。



○×クイズ



○×クイズに参加した子供たちは、司会者の話を真剣に聞いた後、元気に「まる!!」と答えたり、「え〜どっちかな??」と考えたりと、クイズを楽しんでいました。

流しそうめん



ズルズル～



昨年の「地面びしょびしょ事件」から約一年。流水がきちんと排水溝に繋がるように改善して、再びこの企画に挑戦しました。外は、雨が降っていましたが、今年は屋根が増設されたので、みんな濡れずにおいしく召し上がれました。参加したお客様からは、「いっぱいとれました。美味しいです。」とうれしいコメントが飛びかかっていました。

★花火★



【仲間の感想】

- ・ピアノの演奏に合わせて歌ったり踊ったりできて盛り上がった。
- ・バザーやくじで好きな物が手に入った。
- ・流しそうめんやパンケーキがおいしかった。

【来年に向けてのご意見】

- ・晴れてほしい。
- ・ミニコンサートは、ぜひ続けてほしい。
- ・たこ焼き、クレープ作りをやってみたい。

松浦さんによるミニコンサートでは、懐かしのメロディーや、なじみのある曲が流れると、あらぐさのみんなも、歌ったり踊ったりノリノリでした。 (関口)

♪ミニコンサート



この他にも、あげお福祉会による「ポップコーン」や、かしの木園による「わたあめ」、年金者組合による「いなりずし」「コーヒー」、あらぐさ福祉会お菓子班による「パン」「ケーキ」「クッキー」の販売がありました。

会場に来られなかった方々へ、おみやげやプレゼントとして購入して下さる方々がいらっしゃいました。

ご参加いただいた団体の皆様、まことに、ありがとうございました。

『第2クローバーハウス通信…春』

杉の子学園のフェスティバルに行ってきました！

4月29日（祝）に、第2クローバーハウスの日中活動として、仲間6名と職員3名で杉の子学園様のフェスティバルに行きました。社会福祉法人さいたま福祉事業協会「杉の子学園」は生活介護事業等を行っている入所施設です。毎年、運動会やクリスマス会等の行事にお誘いを受け交流させて頂いています。

今回のフェスティバルでは、「ステーキのどん」が出店していました。串焼きやハンバーグはボリューム満点で大行列でした。また「さいたまそば打ち倶楽部」の方々の本格的な手打ちそばも頂きました。当日は夏日と思わせる程陽射しが強く、午後の後半に楽しみにしていたビンゴゲームに参加することができずとても残念でした。仲間達はほんのり顔が陽に焼け、ホームに着くと楽しかった余韻と今年初めての暑さの疲労で夕食まではゴロゴロしたり好きな飲み物で喉を潤したりほっとした様子で過ごしました。最後にご招待して頂き、楽しいひと時を過ごす事が出来たことに感謝いたします。



* 避難訓練を行ないました

6月22日の17時10分、リビングや自分の部屋でくつろいでいる時間帯に大きな揺れを感じて「地震だー！」「机の下に隠れて！」の後に火災発生を想定し避難する訓練を行ないました。職員が消防署に通報している間もう一人の職員は利用者がケガをしないようにリビングから外に誘導して無事に避難することが出来ました。毎年、年に2回避難訓練を行う事を義務付けられていますが、毎回違う状況を想定した避難訓練を心がけて行きたいと思います。（相良）

～後援会のページ～

後援会総会開催



6月6日（土）第16回あらぐさ福祉会後援会総会が行われました。
皆様のご支援ご協力により、2014年度も無事活動が終了致しました。

主な活動は、模擬店（やきそば、チヂミ他）・物品販売（わかめ、昆布）・バザー・コンサート・入所施設「花園」見学・成年後見人制度の学習会でした。

なかでも、「コンサート」が1番大きく大変な活動でしたが、準備から当日まで関わって下さった方々、また観に来て下さった方々、大勢のお力のおかげで成功出来た事、とても嬉しく思っております。本当にありがとうございました。

これらの活動で得た収益金は「あらぐさ福祉会本部」に寄付し、事業所雑草、第1・第2クローバーハウス、支援センター雑草、そして仲間、職員のために大切に使用して頂いています。もちろん新しい事業を始める為の貯金もしています。

そして収益金の中でも1番大きく占めているのは、皆様の賛助会費です。この賛助会費にどれだけ助けられているのか計り知れません。本当に感謝しております。

どうぞ、今年度も引き続き賛助会員になって下さるよう、声掛けして頂けると助かります。これからもよろしくお願します。

賛助会員の方には「あらぐさニュース」を送らせて頂いております。

さて、今年度は、新しくできた近くの事業所、ホームの見学を8月下旬頃、あと、フラワーアレンジメント講習会を予定しております。詳細は、あらぐさ福祉会まで問い合わせして下さい。（TEL:048-726-5720）一緒に活動していきましょう。また恒例のイベントへの模擬店出店も行います。

9月20日（日）上尾元気祭り（丸山公園）

10月18日（日）ふれあい広場（丸山公園）

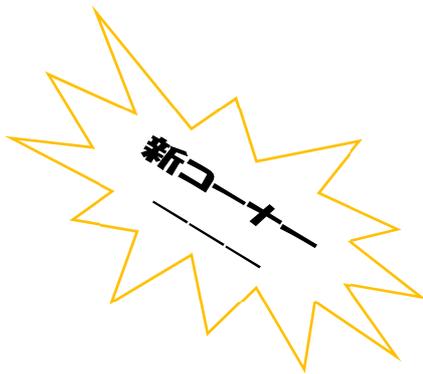
未定 わくわく公園祭り（水上公園）

どうぞ遊びにいらして下さい。



2015年度も協力し合いながら活動していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。
これから夏本番、体調を崩さず元気にお過ごし下さい。

あらぐさ福祉会
後援会 会長 高橋 弘美



あらぐさ応援団

『雑草』は様々

な方々に支えられて今に至っています。

今回は昨年から土曜開所の時に『ギターの弾き歌い』をして
くれているボランティアの高石稔さんを紹介します。

高石さんは定期的に土曜開所日に来ていただき毎回一時間
程度、『ギターの弾き歌い』を通して仲間と楽しい時間を
すごしてくれています。

あらぐさの仲間はみんな歌が大好きなので毎回ノリノリ
で一緒に歌うだけではなく、音楽に合わせてタンバリンや鈴
を鳴らしたり、ダンスを踊ったりしながら楽しんでいます。

(高野内信彦)

※今後の予定

8月1日、9月5日、11月7日、12月5日、
2月6日、3月5日



～高石稔さんからの言葉～

60歳で定年を迎え、それを機会に、会社とは違った事で、何か活動できないかと思い、若い頃経験のあったギターの弾き歌いで「高齢者介護施設」の「デイサービス」への訪問を始めたのが事の初めでした。当初は滞りなく歌えるものか、喜んでもらえるものかドキドキ。

また、長続きさせるには、ある程度の数のレパートリーも必要だし、ということで、試行錯誤でした。施設によっては「重度」の方の入所施設もあり、見た目、反応がなく、戸惑ったりもしましたが、「態度には表せないですが、すごく喜んでいましたよ。」とスタッフの方から後日談を頂いたりしながら、今は訪問先に一人でも喜んでくれる人を見つけたら、その人のために歌おう、と心がけて歌うようにしています。このような活動ができること自体、私自身の健康の証しということで、体力、気力が続く間、継続したいと思っています。果たして何歳まで歌えますか???

編集後記

今年度からまたニュースの編集委員を担当することになりました。仲間の様子などを皆さんに楽しく、わかりやすくお伝えするにはどうすれば良いかを考えながら、より良い「あらぐさニュース」を作成していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。(高野内)